



プログラム登録

▽入試

日独共同大学院プログラムに参加できるのは、東京大学大学院総合文化研究科博士課程に所属する学生です。既存のいずれかの専攻の入試を受け、入学後に、指導教員と相談のうえ本プログラムへの仮登録手続きをとってください。プログラム委員会による審査と、所属専攻・コース主任の承認を得て、正式に登録が完了します。

▽プログラム登録

4月(当該年度の博士課程入学者)

- 所定期間（3年以内）での博士論文執筆を目指していること。
- 博士論文を総合文化研究科に提出することを前提としていること。
- ドイツのパートナー大学等での研究滞在を希望していること。
- 研究分野は問いません。

プログラム登録要件

問い合わせ先

日独共同大学院プログラム運営委員会

〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1

東京大学大学院総合文化研究科附属

グローバル地域研究機構 9号館3階313号室気付

E-mail: desk@desk.c.u-tokyo.ac.jp

URL: http://www.desk.c.u-tokyo.ac.jp/j/education_040.html

日独共同大学院プログラム

「日独共同大学院プログラム」とは、独立行政法人・日本学術振興会（JSPS）とドイツ研究協会（DFG）との共同事業として、日本とドイツのパートナー大学が協力して大学院博士課程の教育研究を共同で行ない、プログラムに参加する学生が出身大学において博士号を取得することを支援するものです。

2007年9月から2017年8月までの期間、「学際的市民社会研究」を共同研究課題とし、東京大学大学院総合文化研究科とマルティン・ルター・ハレ・ヴィッテンベルク大学第一哲学部とのあいだで集中的に学生・教員を相互派遣し、年2回の共同セミナー、国際シンポジウム等を実施しました。

東京大学では10年間にわたる「日独共同大学院プログラム」の成果と実績を受け継ぎ、同大学院総合文化研究科の博士課程教育プログラムとして設置された「日独共同大学院プログラム」科目を引き続き運営します。現在はこの「日独共同大学院プログラム」を中心に、ドイツ・ヨーロッパ研究センターが提供する修士課程プログラム「欧州研究プログラム」とも連携しながら、ハレ大学をはじめとするドイツのパートナー大学（ギーセン、ボン、ベルリン、ケルン、デュッセルドルフ、ミュンヘン）、ドイツ研究振興協会（DFG）、ドイツ学術交流会（DAAD）およびDAADが世界各国（米国、カナダ、イギリス、フランス、オランダ、ポーランド、ロシア、イスラエル、ブラジル、韓国、中国）に設置するドイツ・ヨーロッパ研究センターとの協力関係を深め、大学院共同教育を通じて国際的な学術交流を促進し、若手研究者養成と国際共同研究の充実を目指しています。

プログラムの趣旨

「日独共同大学院プログラム」とは、日独の大学が大学院博士課程の教育研究を共同で行い、プログラムに参加する学生が出身大学において博士号を取得することを支援するものです。2007年9月から2017年8月までの期間、独立行政法人・日本学術振興会（JSPS）とドイツ研究振興協会（DFG）の支援に基づき、東京大学総合文化研究科とハレ大学との間で集中的な学生・教員の相互派遣と共同セミナー・国際シンポジウムが実施されました。現在は、大学院総合文化研究科の博士課程教育プログラムとして設置された「日独共同大学院プログラム」科目を中心に、ドイツのパートナー大学等との間で以下のプログラムを実施しています。

▽博士課程学生の派遣

本プログラム登録者は、東京大学大学院総合文化研究科とドイツ協定校とのあいだで締結された学術交流協定等に基づきパートナー校等に滞在します。海外滞在や博士論文執筆のための海外調査に対しては、東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センターの海外滞在旅費の援助を受けることができます。

▽複数指導教員体制

プログラムに参加する学生は、パートナー大学等の指導教員による研究指導を受けることができます。教員の相互派遣による集中講義も行なわれます。

▽共同セミナー

共同セミナーや国際会議の開催を通じて教員、学生間の緊密な交流が行われ、共同研究課題（学際的市民社会研究等）に関する共同研究も進めます。2019年から2021年にかけて、ドイツ・ギーゼン大学およびイギリス・バーミンガム大学との間でワークショップやシンポジウムが開催されました。また2021年10月には中国北京大学ドイツ研究センターおよび韓国中央大学校ドイツ・ヨーロッパ研究と共同で、第5回DAAD東アジアセンター会議が東京で開催され、各センターの若手研究者も研究報告を行いました。東アジアの3センター間では、若手研究者の交流会も定期的に実施されています。



2019年10月中国・北京大学で開催された第4回東アジアDAADセンター会議における、プログラム参加学生による研究報告の様子

●国際的な環境の中での若手研究者育成

▽国際的な共同教育を大学院博士課程の教育プログラムとして実施し、国際的水準の大学院教育を実現します。

▽日独のきめ細やかな共同教育を通じて、高い水準の博士論文を短期間で執筆することを可能にします。

▽相手国の研究者・学生との交流を通じて、若手研究者を早い段階から国際的な研究ネットワークに組み込みます。

コーディネーター・運営組織

▽日本側(東京大学大学院総合文化研究科)

【コーディネーター】梶谷真司（超域文化科学専攻教授）

【プログラム運営委員長】川喜田敦子（地域文化研究専攻教授）

【日独共同大学院プログラム運営委員会】市野川容孝（国際社会科学専攻教授）、川喜田敦子（地域文化研究専攻教授）、竹峰義和（言語情報科学専攻教授）、外村大（地域文化研究専攻教授）、森芳樹（言語情報科学専攻教授）、森井裕一（地域文化研究専攻教授）、平松英人（ドイツ・ヨーロッパ研究センター講師）

カリキュラム

●カリキュラムの特色

▽海外滞在旅費の支援

パートナー大学等での長期・短期の滞在、ドイツでの調査に対して、旅費の支援を受けることができます（ドイツ・ヨーロッパ研究センター「IGK奨学助成金」として別途審査後に支給）。

▽複数指導教員体制

参加学生は、日独の複数の教員による研究指導を受けることができます。パートナー大学等から指導者を選ぶ際には、指導教員とよく相談して下さい。

▽論文執筆と修了

博士論文作成については所属専攻の規定に従います。プログラム修了者には、日独共同大学院プログラム修了証が授与されます。

▽主な使用言語

主要言語はドイツ語と日本語ですが、英語などその他の言語が使用されることもあります。

●日独共同大学院プログラム科目

プログラムに参加する学生は、博士課程修了必要単位（20単位）に加えて、以下の日独共同大学院プログラム科目より6単位を取得します。

▽日独研究論・Ⅱ：日独地域研究並びに日独比較研究のために必須の基礎的知見・アプローチの手法を習得します（Sセメスターに（I）Aセメスター（Ⅱ）が開講）。

▽日独研究特別研究Ⅰ・Ⅱ：東京大学（I）またはパートナー大学等（Ⅱ）で提供される講義への参加が単位認定されます。

▽日独研究演習Ⅰ・Ⅱ：東京大学（I）またはパートナー大学等（Ⅱ）で提供される演習での研究報告や積極的参加が単位認定されます。

▽日独研究実験実習：博士論文作成に向けたフィールド・リサーチならびにその成果を取り入れた研究報告を日独双方の指導教員が合意に基づいて単位認定します。

本プログラムは、東京大学大学院総合文化研究科の教育プログラムですが、修士課程欧州研究プログラム(ESP)など、これまでの東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センター(DESK)の研究・教育実績をふまえて発足するものであり、本プログラムに参加する学生はDESKの研究・教育活動にも積極的に関与することが求められます。

東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センター(DESK)との関係